

大学機関別認証評価

自己評価書

平成21年6月

佐賀大学

目 次

I	大学の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 大学の目的	5
	基準2 教育研究組織（実施体制）	13
	基準3 教員及び教育支援者	25
	基準4 学生の受入	37
	基準5 教育内容及び方法	47
	基準6 教育の成果	83
	基準7 学生支援等	93
	基準8 施設・設備	107
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	115
	基準10 財務	127
	基準11 管理運営	135

I 大学の現況及び特徴

1 現況

(1) 大学名 佐賀大学

(2) 所在地 佐賀県佐賀市

(3) 学部等の構成

学部：文化教育学部、経済学部、医学部、理工学部、農学部

研究科：教育学研究科（修士課程）、経済学研究科（修士課程）、医学系研究科（修士課程・博士課程）、工学系研究科（博士前期課程・博士後期課程）、農学研究科（修士課程）

関連施設：

<教育研究関連施設等> 附属図書館、教養教育運営機構、保健管理センター、アドミッションセンター、キャリアセンター、産学官連携推進機構、文化教育学部附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校・教育実践総合センター、医学部附属病院・地域医療科学教育研究センター・先端医学研究推進支援センター、農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター

<全国共同利用施設> 海洋エネルギー研究センター

<学内共同教育研究施設等> 総合分析実験センター、総合情報基盤センター、留学生センター、低平地研究センター、海浜台地生物環境研究センター、シンクロトロン光応用研究センター、高等教育開発センター、地域学歴史文化研究センター、有明海総合研究プロジェクト

(4) 学生数及び教員数（平成21年5月1日現在）

学生数：学部6,314人、大学院1,000人

専任教員数：746人

助手数：3人

2 特徴

【沿革と構成】

本学は、平成15年10月に旧佐賀大学と旧佐賀医科大学が統合して新たに佐賀大学として発足し、平成16年4月、国立大学法人佐賀大学として再出発した。前身である旧佐賀大学は、昭和24年佐賀高等学校、佐賀師範学校及び佐賀青年師範学校を母体に、文理学部と教育学部からなる新制佐賀大学として設置された。その後、昭和30年には農学部が、昭和41年には経済学部及び理工学部（文理学部を改組）がそれぞれ設置され、統合前には、文化教育学部（平成8年に教育学部を改組）、経済学部、理工学部及び農学部の4学部・4研究科で構成されていた。一方、旧佐賀医科大学は、政府の医師不足解消及び無医大県解消政策の一環として昭和51年に医学科のみの単科大学として発足したが、平成5年には看護学科が設置され、1学部・1研究科の構成になっていた。

現在の佐賀大学は、上記の5学部・5研究科を備えた総合大学で、旧佐賀大学を継承した本庄キャンパスと医学部・医学部附属病院が所在する鍋島キャンパスの2キ

ャンパスからなっている。

【取組】

1) 佐賀の地域において高等教育を担う総合大学

本学は、5学部・5研究科を備えた総合大学として、県内はもとより、隣接する福岡、長崎県など九州各地からの入学生が大半（90.5%：平成21年度）を占め、地域の学生に対して幅広い高等教育を提供している。特に、佐賀県内の5大学及び放送大学佐賀学習センターとともに「大学コンソーシアム佐賀」を設立し、県内の高等教育の普及を図っている。

2) 研究教育拠点を広く地域に展開

全国共同利用施設として海洋温度差発電など海洋エネルギーの活用を研究する海洋エネルギー研究センター（伊万里市）、玄海灘海浜台地と浅海域の生物環境を調査研究する海浜台地生物環境研究センター（唐津市）、有明海などの湾海の周辺低平地環境を総合的に研究する低平地研究センター（本庄キャンパス）、「佐賀の大学」を象徴する地域学歴史文化研究センター（本庄キャンパス）、地域医療の教育研究拠点として国立大学で初めての地域医療科学教育研究センター（鍋島キャンパス）を持ち、地域に密着した研究教育を進めている。また、シンクロトロン光応用研究センターが、鳥栖市に設置されている佐賀県立九州放射光施設を中心に、九州地区的大学など諸機関と連携して研究教育を進めている。

3) 地域社会との連携

佐賀県及び産業界等と「佐賀県における产学研官包括連携協定」を結び、小城市、鹿島市、唐津市、佐賀市や有田町とも包括的協定を締結し、地域社会との連携を深めている。また、平成18年に設置した佐賀大学产学研官連携推進機構を通して、本学の創出した知的財産の社会への還元を推進している。

医学部附属病院では、教育実習ならびに卒後臨床研修センターとしての機能に加えて、1日平均780人の外来患者、523人の入院患者の診療、ハートセンターによる24時間ホットライン、救命救急センターの小児救急電話相談、地域に密着した感染症の医療機関間情報ネットワーク、佐賀在宅・緩和医療ネットワーク、がん診療連携拠点病院としての肝がん検診システムなどを行い、佐賀県の中核病院としての役割を果している。

また、文化教育学部は、佐賀県教育委員会との連携・協力協定を結び、教育開発や教員研修など、県内の初等・中等教育の向上に取り組んでいる。

4) アジアの知的拠点

本学には全学生の4%に相当する295人（平成21年5月1日現在）の留学生が在学し、また本学はアジアを中心として61大学、67学部・専攻と学術交流協定を締結している。歴史的・地理的特性を活かし、アジアの知的拠点として、日本・アジアの視点から国際社会への貢献を目指している。

II 目的

本学の設置目的並びに学士課程及び大学院課程の教育研究目的は、「国立大学法人佐賀大学規則」並びに「佐賀大学学則」及び「佐賀大学大学院学則」において、次のように定めている。

【佐賀大学の目的】

大学の教育研究に対する国民の要請にこたえるとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と均衡ある発展に寄与することを目的とする。

【学士課程の目的】

国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成するとともに、高度の学術的研究を行い、さらに、地域の知的拠点として、地域及び諸外国との文化、健康、社会、科学技術に関する連携交流を通して学術的、文化的貢献を果たすことにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的とする。

【大学院課程の目的】

大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

また、学部・研究科においては、各学部・研究科規則により、次のように定めている。それぞれの学部・研究科に置く各課程・学科・専攻の目的等、詳細については基準1を参照されたい。

<学士課程>

【文化教育学部の目的】

文化教育学部は、学校教育課程、国際文化課程、人間環境課程及び美術・工芸課程により構成し、各々の課程の持つ特質を融合させたカリキュラムを整え、特定の専門知識に偏らない「総合知」を有する人材を育成することを目的とする。

【経済学部の目的】

経済学部は、経済学・経営学・法律学を柱として社会科学上の知識と教養を受け、経済社会における問題を分析し解決できる人材を育成することを目的とする。

【医学部の基本理念】

医学部に課せられた教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応える良い医療人を育成し、もって医学・看護学の発展並びに地域包括医療の向上に寄与する。

【理工学部の目的】

理工学部は、幅広い教養と科学・技術の専門的な素養を持ち、社会の広い分野で活躍できる人材を育成することを目的とする。

【農学部の目的】

農学部は、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とする。

<大学院課程>

【教育学研究科の目的】

教育学研究科は、初等中等教育において指導性を發揮しうる高度の専門的学術を授け、理論と実践の研修を通して、学校教育に関する高い実践力と研究能力を備えた人材を養成することを目的とする。

【経済学研究科の目的】

経済学研究科は、経済学及び経営学・法律学の教育・研究によって幅広い視野と豊かな応用力を培い、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材を養成することを目的とする。

【医学系研究科の基本理念】

医学系研究科は、医学・医療の専門分野において、社会の要請に応えうる研究者及び高度専門職者を育成し、

学術研究を遂行することにより、医学・医療の発展と地域包括医療の向上に寄与する。

【工学系研究科の目的】

工学系研究科は、理学及び工学の領域並びに理学及び工学の融合領域を含む関連の学問領域において、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者・技術者等、高度な専門的知識・能力を持つ職業人又は知識基盤社会を支える深い専門的知識・能力と幅広い視野を持つ多様な人材を養成し、もって人類の福祉、文化の進展に寄与することを目的とする。

【農学研究科の目的】

農学研究科は、科学技術の高度化・情報化・国際化に伴う社会の要求に応えるため、学部教育の幅広い基礎学力を基盤とし、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者及び高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人を養成することを目的とする。

(各課程・学科・専攻の目的等は **別添資料** にも添付)

